

蒸気エンジンの魅力

英国各地で行われている「スチーム・フェア」と呼ばれる、蒸気機関を楽しむためのお祭りは、気候のいい5月から9月の間、毎週末どこかで行われている人気の催し物だ。愛好家たちは自慢の蒸気機関を持ち寄り、訪れる観客たちは、年に1度やってくるサーカスやカーニバルのごとく博覧会的な雰囲気を楽しむために集まってくる。その中でも最大規模のものが、イングランド南部ドーセットで行われているドーセット・グレート・スチーム・フェアで、今年で37回目を数え、毎年2000を越える蒸気機関が展示される。設置されたテントの中では、在りし日の蒸気機関のミニチュアモデルの博覧会が繰り広げられていた。ニューコメンエンジン、ワットの蒸気機関…いずれも約30センチの卓上サイズに縮小され、びかびかの真鍮や鉄でできていて、模型とはいえ実際に駆動するものばかり。10歳くらいの茶色の巻き毛の少年が、机の上に並べられた蒸気機関モデルの前にかじりついて動かない。

1920～30年代の蒸気機関の玩具を収集し、復元しているマルセロ氏は、蒸気機関モデルに熱中するようになった理由をこう語る。「10歳の誕生日に、親戚から実際に駆動する機械部品の玩具を贈られた。それがきっかけ。25年経った今もちゃんと動くんだ。本当に驚くよ。」とくに英国の子どもたちには、身近に蒸気エンジンに触れたり、工具を使う組立て玩具として蒸気機関モデルを与えられた経験がある。英国で発明された蒸気機関を愛する気持ちと、産業革命というノスタルジー、自分が改造したモデルが実際に駆動する面白さに取り憑かれ、長じて本格的なスチーム・カーを組み立てる趣味人が多いのも、そうした原風景があるからだろう。

数十台並べられたスチーム・カーは、ただの飾りではないと、持ち主たちは力説する。ローラーのような車輪を持つスチーム・カーは、舗装のない時代、土を踏んで道を作るために活躍した。機関車のようなスチーム・カーは、畑を耕し、樽を乗せた荷車を牽いて

働いていたと、実演してみせてくれる。そこで、凄まじい音を立てて、地面に置かれた小型の蒸気エンジンが稼働しはじめ、他には何の音も聞こえなくなった。持ち主が見せた説明書きによると、ミルクを攪拌し、冷やすための蒸気機関だとか。イギリス独特のウィットなのだろうが、その音のせいで、隣家まで相当の距離を確保しないと、コップ1杯分も冷やせない迷惑な代物らしい。

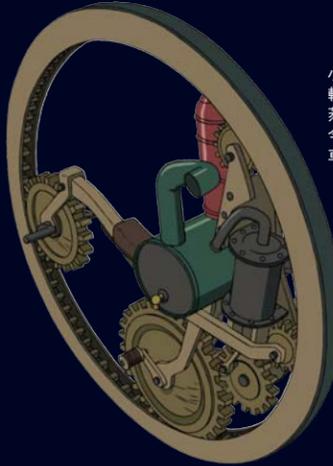
展示参加者の1人、ウッド氏は飛行機のエンジニアだったが、リタイア後に、趣味でスクラップ寸前のスチーム・カーを解体修理し、復元している。不足の部品はフェアで購入するか、のみの市でさびついたスクラップから部品を探すのだそうだ。それを組み立て、休日には家の前にスチーム・カーを展示して、通りかかる人の前でたまに稼働させてみる。そこに垣間見えたのは、イギリス流「究極のスローライフ」。大人も子どもも楽しめる動く玩具が、イギリスでは「蒸気機関」なのだ。

丘の上に疾走する“蒸気機関”登場。

文/ 中川悠紀子 写真/ PPS



現役できちんと稼働することをアピールして、19世紀のスチーム・カーが凱旋パレードを行う。スチーム・フェアは、好事家ばかりではなく、一般の人々が蒸気機関と触れ合うまたない機会となっている。フェアの趣旨は、「蒸気機関を通して、イギリス流の生き方を人々に伝えること」だそうだ。



小型蒸気動力を利用した一輪自走車。自力で漕ぐ力と蒸気エンジンを利用した、今でいう電動アシスト自転車の原型のようなもの。

一輪自走車



装甲車体中央に蒸気機関部を搭載しているため、砲手も操縦者も外に出ている。縦横無尽の装甲を可能にする鋼鉄のキャタピラーを使用。

英国軍 蒸気戦車

19世紀、蒸気機関によって発展を遂げたビクトリア朝のイギリス。驚異の発明くスチームボールをめぐって、少年レイの冒険が始まる――。

9年の時間と24億円をかけて製作、昨年夏劇場公開された大友克洋監督作品『スチームボーイ』は、近代文明が発達しはじめた頃を舞台に、科学の進歩と人類の欲望を描くアニメーション作品だ。歯車やねじ、鉸、そしてボイラーや煙突の意匠で覆われたクラシカルで大変魅力的な機械が多数スチームをまとい登場する。スチームは、キャラクターや舞台背景とならんで、いやそれ以上に最も重要な脇役として映画全体を彩る存在だ。メカ・エフェクト作画監督の橋本敬史はどのように蒸気の動きの特性を表現したのだろうか。

通常、アニメーションでは蒸気は光と影だけで表現され、それが蒸気あるいは煙という記号として成立している。「だから別な表現をしたい」と考えて、車の排ガスから街のなかで立ち上る湯気など数多くの実物を見た。スチームが予想外の動きをすることを知った。また実際に見るまでは「蒸気の力を侮っていた」ところがあったそうだ。だが、イギリスのロケハンで実際に動く大きな蒸気機関を目の当たりにし、

蒸気に内在する凄まじいパワーを知った。その結果、取った手段は現在アニメの現場では全盛のCGではなく、手書きで描くことだった。「けれんを作るのは手のほうがいい。キャラクターとして表現しやすいんです」と語る。たとえば実際の煙の動きをそのまま表現するのではなく、わざと遅く、あるいは速く動かす。キャラクターのそばではスチームに渦を巻かせる。スチームそのものに芝居をさせることで、キャラクターの心象をスチームで表現した。「煙をどうキャラとして立たせるか。キャラ

られているような印象も持ったという。数多くの大友マンガにアシスタントとして参加し、監督の補佐を勤めてきた原図整理の末武康光も、巨大なボイラーに絶えず油を差している様子が印象的だったと語る。「すごくトリッキーな動き、無駄が多いように見える動きをすんでしょ。いまの機械は遊びの部分がないけれど」

また、ピカピカに磨かれた真鍮や銅など金属の質感、威圧感を持つ大きさや力強さも心に残ったという。歯車と脚の動きの関係など、表現したい動きからメカデザインを

『スチームボーイ』に見る 蒸気メカのリアル。

文 森山和道

クターの演技を邪魔しないように意識しつつ、どう食うかに力を注ぎました」もっとも会心のスチームは、ヒロインのスカレットが食卓で蒸気を手で払うシーンだという。蒸気機関の機械は手作りの熱さのようなものがあるという。今の機械は何が入っているかわからないが、当時の機械はカムやクランクなど機能一つ一つが目に見える。機構と機能の因果関係が明解な機械だ。そのいっぽう、実際にロケで見た蒸気機関を動かしている様子は、巨大な機械に人間が操

進めることもあったそうだ。SLを眺め、石炭ストーブでいたずらをするなど、幼少期に機械にふれた体験がリアルなイメージ力のもとになっているともいう。

大友監督、スタッフの熱さを凝縮させたメカたちは、蒸気機関の発達した夢の世界を存分に楽しませてくれる。



蒸気兵

背中のバックパックに蒸気エンジンを搭載したワードスーツを着用。スーツは中世の甲冑デザインがベース。



水中兵

水中戦用に特化しており、極めて密閉度が高い。そのため視界が悪く、地上ではいまいち動きが鈍い。



飛行兵

強力な圧力に加えて空気力学をも応用したメカ。腰には爆弾を付け、狙った場所で投下する。



スチーム ボール

アイスランドで発見された特殊な液体から作られた驚異的なエネルギーを閉じこめたボール。高密度に圧縮された圧力は、通常の蒸気エネルギーとは比較にならない凄まじいパワーを宿している。

蒸気エンジンの魅力

元来は荒地の改良用に開発されたトラクター。重量級のメカながら前後輪とも駆動し、優れた走行性能と家屋をも破壊する力を合わせ持つ。

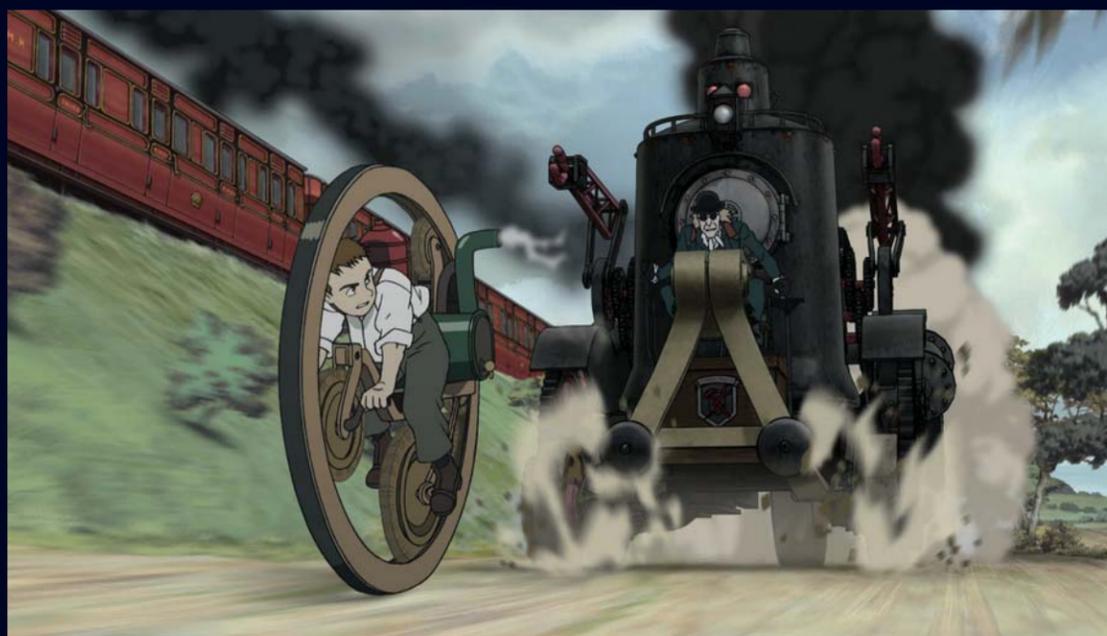


スチーム城

物語の最終章に登場する“驚異の発明”。蒸気のパワーで起動し、歯車を中心に機械的構造物が積み上がった城。



歯車メカ



©2004 大友克洋・マッシュルーム/STEAMBOY製作委員会



英国軍に対抗してオハラ財団が繰り出す戦車。こちらは砲塔も装甲されている。

オハラ 財団戦車

DVD「スチームボーイ」メモリアルボックス ディスク3枚分の特典映像には、英国ロケハンの様子や映像制作の細部まで、メイキングが充実！36ページカラーブックレット付き。片面2層4枚組。バンダイビジュアルより4月14日発売。10,290円(税込)。通常版も同時発売。3,990円(税込)

